

ハワイの沖縄系レコード産業史に関わる調査研究

栗山新也（文学研究科 日本学）

1. 調査の目的

ハワイにおける沖縄系レコードの流通や制作活動を、インタビューや新聞記事、録音資料などを用いて明らかにし、沖縄レコードを媒介として人々がどのような関係性を形成していったか検討する社会史的分析をおこなう。

2. 具体的作業

i) 地域や国民国家の境界を横断するレコードの展開を描き出し、地域横断的に展開した沖縄の伝統音楽や芸能のポピュラー化を実証的に明らかにする。

ii) 日系レコードの流通に対し沖縄系レコードはどのような流通経路をもっていたか、その流通におけるコンフリクトを明らかにするとともに、どのようなレーベルや音楽ジャンルがハワイで受容されていたか明らかにし、ハワイにおける沖縄レコードの展開の独自性を示す。

iii) レコード販売のネットワーク、レコードの聴衆、あるいはレコードがどのようなメディアや集団とかかわっていたか明らかにし、レコードにひきよせられた新たな人々の関係性を明らかにする。

3. 調査概要

期間：2011年2月27日～3月18日

調査地：金武町史編纂室（沖縄県）、RBC（沖縄県）、ハワイジャパニーズセンター（ハワイ島ヒロ）

調査内容：1、金武町史編纂室に所蔵されているハワイ移民によって寄贈されたレコードの調査

2、沖縄でのレコード制作関係者への聞き取り調査

3、ハワイジャパニーズセンターでの聞き取り調査

4、ハワイの邦字新聞における関係記事や広告の収集

4、調査成果

本調査によって重要な証言や資料を断片的に収集することができた。本発表では、沖縄系レコードの流通や制作活動だけに限らず、日系レコードの流通、ラジオ放送、楽器や楽譜の流通、沖縄での録音活動なども視野に入れながら報告をおこなうことにしたい。

4-1、戦前

- ①新聞資料と証言から
- ②日系レコードの流通
- ③ラジオ放送
- ④楽器や楽譜の流通

4-2. 戦後

- ①レコードショップ
- ②金武町史編纂室所蔵のレコードからわかること
- ③一世による民謡の録音
- ④二世による録音

5、今後の課題

ハワイ島ヒロでは、戦前の状況を知るお年寄りと交流を深めることができた。彼／彼女らの証言をたよりにしながら、レコードを媒介にしてつくりあげられた新たな人びとの関係性をさらに深くさぐっていきたい。